

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

ユーザー端末と外部ネットワークを物理的・論理的に隔離し、通信の安全性を確保するセキュリティシステムにおいて、 ユーザー端末からの操作指示を受領するコックピット・インターフェースと、 前記コックピット・インターフェースと論理的に分離されたクラウド環境上で稼働し、前記ユーザー端末に代わって外部ネットワークへのアクセスおよびアプリケーションの実行を代行するプロキシ型 A I エージェントと、 前記プロキシ型 A I エージェントが取得した外部データを解析し、前記ユーザー端末へ無害化した情報のみを伝送する情報フィルタリング手段と、 を備え、ユーザー端末のローカル環境と外部ネットワークの脅威を物理的・論理的に分断した状態で業務を完遂することを特徴とする、セキュリティ・バイ・デザインに準拠した安心の窓口システム（デジタル出島）アーキテクチャ。

【請求項 2】

大規模言語モデル（LLM）を用いた多言語情報の動的な文化適合化システムにおいて、 外部ネットワークから取得した多モーダル情報（テキスト、音声、画像、動画）を解析するデータ解析ユニットと、 特定の文化圏固有の倫理観、習慣、および文脈的背景を記述したナレッジベースである和の心データベースと、 前記解析された情報と前記和の心データベースを参照し、言語的翻訳に加えて文化的背景の補足情報の付与、およびターゲット言語への動的な吹替・書換処理をリアルタイムで実行するローカライゼーション・エンジンと、 を備え、情報の提示時点においてユーザーの母国語および文化的背景に適合させた状態で出力することを特徴とする、文脈理解型情報提供システム。

【請求項 3】

人工知能の倫理的調整（アライメント）に用いる高品質な学習用データセットを精錬する方法において、 ユーザーと A I エージェントとの間で発生した自然言語による対話ログを収集するステップと、 前記対話ログから、日本独自の倫理的価値観、道徳性判断、および利他的な感性に関連する特徴量を抽出するステップと、 抽出された前記特徴量を、人間によるフィードバック（RLHF）の代替となる高品質な倫理教師データとして構造化するステップと、 構造化されたデータを、特定の A I モデルの挙動を社会規範に適合させるための精錬済みデータセットとして出力す

るステップと、 を含み、高度な信頼性を有するA Iモデルの教育用資源を自律的に生成することの特徴とする、和の心データセットの精錬プロセス。

【請求項 4】

分散型ネットワーク上での経済活動から得られる収益を自動分配する資金循環制御システムにおいて、 外部プラットフォームおよび独自のD 2 C コマースから発生した外貨収益をリアルタイムで検知する収益検知ユニットと、 あらかじめ設定されたアルゴリズムに基づき、前記外貨収益を、(a) ユーザーへのフロー所得、(b) 次世代成長産業および前記資金循環制御システムの運営主体への自動再投資、および(c) 社会貢献基金、の三者へ所定の比率(6 : 2 : 2)で瞬時に自動分配する分配実行ユニットと、 前記分配された資金のうち(b)の再投資による資本収益を、ユニバーサル・ベーシック・ウェルスの原資としてユーザーの純資産へ再帰的に紐付けるとともに、ユーザーを前記運営主体の株主として紐付ける資産管理台帳と、 を備え、A Iの進化が国民の資産増大および運営主権の獲得に直結する動的な富の循環を創出することの特徴とする、恵み分けモデルを用いた資金循環制御システム。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の資金循環制御システムにおいて、前記分配実行ユニットは、為替レートの変動を監視し、所定のアルゴリズムに基づき外貨から日本円への変換を実行する手段を有することの特徴とする、資金循環制御システム。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の安心の窓口システムにおいて、前記情報フィルタリング手段は、前記プロキシ型A I エージェントが取得した外部コンテンツから、実行可能なスクリプトおよび悪意あるコードを自動的に除去し、動的な情報を静的な表示用データへと再構築した上で前記ユーザー端末へ伝送する機能を有することの特徴とする、安心の窓口システム。

【請求項 7】

請求項 2 に記載の文脈理解型情報提供システムにおいて、前記ローカ

ライゼーション・エンジンは、前記和の心データベースを参照し、翻訳対象となる言語的情報に加え、対象文化圏における礼節、敬意の度合い、および非言語的ニュアンスを動的に選択・付加する処理を実行することを特徴とする、文脈理解型情報提供システム。

【請求項 8】

請求項 3 に記載の和の心データセットの精錬プロセスにおいて、前記特微量を抽出するステップは、ユーザー自身の健康状態およびユーザーの家族を含む周囲環境との調和度合いを照合するステップを含み、自己犠牲を伴わない持続可能な利他性の充足度を判定するとともに、庭園、マップ、またはこれら以外のユーザーにより選択可能な複数の視覚的表現態様を通じて、ユーザーへ前記調和度合いのフィードバックを行い、並びに請求項 4 に記載の社会貢献基金による具体的な社会課題解決への寄与度を統計データに基づき視覚化して提示することで、ユーザーの自立した主権者としての意識変容を促し、自発的な自己修正を促す構成を有することを特徴とする、和の心データセットの精錬プロセス。

【請求項 9】

請求項 4 に記載の資金循環制御システムにおいて、前記分配実行ユニットは、ユーザーの居住地の法制度に基づき、公租公課および社会保険料を算出して自動天引きを行うとともに、当該納付予定額が社会インフラの維持に及ぼす具体的な寄与度を、統計データに基づき視覚的指標としてユーザー端末へ出力する手段を備え、且つ、ユーザーによる納付承認が所定期間内に得られない場合に、あらかじめ設定された条件に基づき専門家へ処理を委託するゲートウェイ手段を有することを特徴とする、資金循環制御システム。

【請求項 10】

請求項 1 に記載の安心の窓口システムにおいて、前記プロキシ型 AI エージェントは、外部ネットワークから潜在的な購買意図を解析して特定するファン・ファインダー・ユニットを備え、前記コックピット・インターフェースを通じて承認された対象者に対し、和の心データベースに記述された倫理観に基づいた対話型接客を多言語で自動執行することで、広告宣伝費に依存せずに商品の成約を支援することを特徴とする、安心の窓口システム。

【請求項 1 1】

請求項 4 に記載の資金循環制御システムにおいて、前記社会貢献基金への分配または前記分配に伴う外部からの成果報酬の算定プロセスにおいて、A I による判断の論理的根拠を改ざん不可能なログとして記録する説明可能な A I （X A I）ユニットを備え、分配の透明性を第三者が監査可能にすることで、社会的インパクトに応じた資金の還流を技術的に担保することを特徴とする、資金循環制御システム。

【書類名】 明細書

【発明の名称】笑顔のありがとうが循環する分散型社会基盤システムおよびその管理方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、人工知能（ＡＩ）を用いた情報セキュリティ、多言語コミュニケーション、および経済的収益分配システムに関する。特に、ユーザーが「文化の外交官」および「親善大使」としてグローバルな価値創出活動を行うための能力拡張手段、およびそれによって得られた収益を、生活・資産・社会貢献へと動的に自動分配する社会基盤（社会ＯＳ）に関する。

（【背景技術】）

【0002】

従来のインターネット環境は、情報の氾濫やサイバー攻撃の脅威に加え、ユーザーの関心を搾取するアテンション・エコノミーが主流となっている。これにより、個人の善意や感性は正当に評価されず、労働と収益が分断された「社会の砂漠化」とも呼ぶべき事態を招いている。

特に、既存のＡＩモデルは英語圏の価値観に偏重しており、日本独自の倫理観（和の心）や利他的な感性が学習データから脱落しているという「忍びない憂い」がある。また、個人がグローバル市場に参入しようとしても、言語の壁、物流の複雑さ、法務・税務手続きの煩雑さが高い障壁となり、個人の能力が埋没しているのが現状である。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

ユーザーの安全性を「安心の窓口（デジタル出島）」アーキテクチャにより担保しつつ、言語や文化の壁を「トータルローカライゼーション」により排除し、個人の感性を価値化（データセット精錬およびＤ２Ｃ）する手段を提供することを課題とする。

さらに、得られた収益を「６：２：２」の黄金比で自動分配し、納税や資産形成をシステムが代行することで、事務的負担を排除しながら国民の自立と国家への貢献を両立させることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本発明は、ユーザー端末を隔離するプロキシ型ＡＩエージェント（請求項１）、多モーダル情報を動的に文化適合化するローカライゼーション・エンジン（請求項２）、対話ログから倫理的特徴量を抽出する精錬プロセス（請求項３）、および収益を所定比率で自動分配し、株主としての権利付与

や公租公課の代行納付を実行する資金循環制御システム（請求項４、９）を、統合的に稼働させるものである。

【発明の効果】

【０００５】

本発明によれば、ユーザーは安全な環境下で「文化の外交官」として自己の感性を世界へ届け、感謝の対価として外貨を獲得できる。

さらに、以下の特有の効果奏する。

- １．個人の資本家化：収益の自動再投資により、国民全員が資産形成と運営主権の獲得を実現できる。
- ２．国家の精神的更生：納税が「誇り」として可視化され、社会貢献『希望の種基金（Hope Seed Fund）』が自動化されることで、受給者から寄付者・納税者への意識変容が促される。
- ３．国家安全保障の強化：徴収コストゼロの安定的財源が確保され、次世代育成と経済循環が自律的に継続する。

【図面の簡単な説明】

【０００６】

【図１】

本発明の全体構成およびデータの流れを示すブロック図である。

【図２】

安心の窓口（デジタル出島）のセキュリティアーキテクチャを示す概念図である。

【図３】

収益分配ユニットによる資金循環のフローチャートである。

【図４】

本システムにおけるプロキシ型ＡＩエージェントの階層構造図である。

【図５】

多層的収益モデルと分配の概念を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【０００７】

以下、本発明の実施形態について図面を参照して説明する。本発明は、個人が「文化の外交官」としてグローバルな価値創出を行い、その収益を安全かつ自動的に分配・循環させるための社会基盤システムを提供するものである。

図１に示すように、本システムは、ユーザー端末と論理的に分離された

隔離環境で稼働する「安心の窓口（デジタル出島）」を備える。**図 2 は、当該「安心の窓口（デジタル出島）」のセキュリティアーキテクチャを示す概念図である。図 2 に示すように、ユーザー端末と外部ネットワークとの間には、プロキシ型 A I エージェントおよび情報フィルタリング手段が介在し、物理的かつ論理的な隔離層を形成している。**プロキシ型 A I エージェントは、ユーザーの指示に基づき外部ネットワーク（SNS、EC プラットフォーム等）へのアクセスを代行し、取得した情報はフィルタリング手段によって無害化された上で、安全なデータとしてユーザー端末へ伝送される。

【0008】

図 3 は、収益分配のプロセスを示している。収益検知ユニットは、外貨収益の発生をリアルタイムで検知する。分配実行ユニットは、あらかじめ設定されたアルゴリズムに基づき、当該収益を（a）生活・尊厳枠、（b）資産・共創枠、および（c）社会貢献・維持枠の三者へ所定の比率（例えば 6：2：2）で即座に分配する。

（b）資産・共創枠においては、ユーザーの純資産形成のための投資に加え、本システムの運営主体への出資が自動的に実行される。これにより、ユーザーはシステムの「利用者」とであると同時に「共同主権者（株主）」としての権利を獲得する。資産管理台帳は、これらの資産推移をユーザー毎に記録・管理する。

（c）社会貢献・維持枠においては、公租公課の自動天引きが行われる。システムは、居住地域の法制度に基づく納付額を算出し、ユーザーの承認（または専門家へのゲートウェイ開放による代理執行）を経て、電子納付を完遂する。さらに、本枠から拠出された資金は、次世代育成のための社会貢献基金（例：『希望の種基金（Hope Seed Fund）』）へと自動還流される。

【0009】

【倫理学習用データセットの精錬】

本システムにおいて、ユーザーとプロキシ型 A I エージェントとの間で交わされる多言語での対話ログ、およびユーザーが行った文化的・倫理的判断の記録は、データ精錬ユニットによって収集される。当該ユニットは、収集されたログから、日本独自の礼節、利他性、および道徳的判断基準に関連する特徴量を抽出する。抽出された特徴量は、特定の文脈における「和の心」を具現化した教師データとして構造化され、特定の A I モデルの挙動を社会規範に適合させるための精錬済みデータセット（和の心：J-E t h o s）として出力される。

【0010】

【多層的収益源と計算リソースの配分】

図5は、本システムにおける多層的な収益モデルと分配の概念を示す説明図である。本システムは、外交・セールス収益（D2C）、倫理データ・ライセンス、推論資源の貸出、およびソーシャル・クレジットの4つの経路から収益を取り込み、前述の6：2：2の比率で循環させる。

具体的には、ユーザー端末がアイドル状態、または計算リソースに余剰がある場合、システムは当該リソースを分散型ネットワーク上のスポット市場へ自動的に貸し出す処理を実行する。また、高負荷な推論処理が必要な場合、システムは「安心の窓口（デジタル出島）」側のエッジサーバーと連携し、低遅延かつ高効率な計算環境を確保する。これにより、インフラの維持コストを相殺しつつ、不労所得的な収益をユーザーの資産枠へ還流させる。

【0011】

【社会的貢献の計量と成果監査】

本システムは、ユーザーの自立や納税、および基金への寄付といった一連の社会貢献活動を、客観的な成果指標として記録する。分配実行ユニットにおける判断および資金の移動は、説明可能なAI（XAI）ユニットによってその論理的根拠が明文化され、改ざん不可能なログとして保存される。この透明性の高い記録に基づき、自治体や企業等から提供される社会的インパクトに対する成果報酬（ソーシャル・クレジット）の受け取りを、技術的に可能としている。

【0012】

【本システムの階層型エージェント構成】

図4は、本システムにおけるプロキシ型AIエージェントの階層構造図である。本システムは、役割の異なる複数のAIエージェントが階層構造（Tier1～4）を形成し、各々が専門的な機能を分担して稼働する自律分散型エージェント群により構成される。

1. 指令塔ユニット（Tier1：ブレン型）：

プロジェクト全体の戦略立案および全情報の記憶を司る中枢脳であり、各実働エージェントへの高精度な指示出しを実行する。

2. 顧客共感応対ユニット（Tier2：System2）：

外部ネットワーク上の対話対象者（SNSユーザー、サイト訪問者等）の悩みや願いに対し、「正論より共感」を指針として和の心データベースに基づいた対話を行い、問題解決の糸口を提示する。

3. 自己内省・メンターユニット（Tier3：System3）：

ユーザーの精神的支柱となり、対話を通じた感情整理とモチベーション

管理を行う。ユーザーの「人となり」や「倫理観」をパラメータ化し、システム全体の行動規範をユーザーの志と同期させる。

4. マーケティング最適化ユニット (Tier 2 : System 4 「希望の芽 (Hope Sprout)」) :

本システムの収益化を支える中核ユニットであり、以下のステップによる「高精度マッチング」を自動執行する。

(ア) 外部ネットワークのクロールによる、潜在顧客の人となり、属性、および需要の抽出

(イ) 提供する商品・サービスと対象者の需要との適合性、およびユーザーと対象者との「相性」の多角的な分析

(ウ) 成約率を最大化するための優先順位付き「マッチングリスト」の動的生成

(エ) 生成されたリストに基づき、広告宣伝費に依存しない個別最適化されたアプローチの実行

5. コンテンツ・信頼資産化ユニット (Tier 2 : System 5、6) :

対話ログからユーザー独自の人間らしさを抽出し、SEOに適合した価値あるコンテンツ (System 5) および、道徳・倫理に基づいた共感を生むコメント (System 6) を生成する。これにより、ユーザーの信頼スコア (徳) をデジタル資産として蓄積する。

6. 事実検証・調律ユニット (Tier 3 : System 7、8) :

一次情報に基づく事実確認を行い情報の信頼性を担保するリサーチ機能 (System 7) と、ユーザーの精神的充足のための真言 (マントラ) を生成する心の調律機能 (System 8) を有する。

【0013】

【対外コミュニケーションの日本語標準化】

本システムにおいて、対外的に発信される多言語情報、および外部ネットワークから取得される情報は、全てローカライゼーション・エンジンにより日本語化されてユーザーへ提示される。これにより、ユーザーは言語の壁を意識することなく、あたかも国内のSNSを操作しているのと同等の心理的・技術的状态で、グローバルな「文化の外交官」としての活動を完遂することができる。

【0014】

【感性生成エンジン : Creative Core (クリエイティブ・コア)】

本システムは、生成されるコンテンツに「美 (Art)」および「諧謔

(H u m o r)」を付与するための共通基盤エンジンである感性生成エンジンを備える。当該エンジンは、以下の機能を統合的に制御する。

【 0 0 1 5 】

1. 情動表現・ペルソナ同調機能：

ユーザーの本来の人格をベースとしつつ、喜怒哀楽の感情表現や雰囲気「知的」「情熱的」「フランク」等のパラメータにより動的に調整する。また、対象者との距離感や文脈をA I が自動解析し、最適な発信内容およびトーンを判断・出力する。これは、テキストのみならず、生成される画像・動画の色調や演出（トーン）にも適用される。

2. 多モーダル生成機能 (M u l t i m o d a l G e n e r a t o r)：

対話の文脈から、テキスト、画像、動画を自律的に生成する。これらは、既存データの再構築、ユーザー固有の資質を反映した合成、または完全新規の創作から、ユーザーが意図に応じて選択可能である。

3. コミュニケーション教育ループ (P r i v a t e M o d e)：

「安心の窓口（デジタル出島）」の適用範囲を、公開ネットワークのみならず、SMSやインスタントメッセージ等のプライベートな対話環境へと拡張する。当該モードにおいて、A I エージェントは相手を傷つけない「配慮ある表現」への変換をリアルタイムで提案する。

ユーザーは、A I によるナビゲーションを通じて配慮ある言語表現を継続的に使用することで、ユーザー自身の言語的教養および倫理的リテラシーを向上させる教育的フィードバックループ（自発的な自己修正プロセス）を形成する。

【実施例】

【 0 0 1 6 】

本システムにおける収益創出および分配の具体的なシミュレーション例を以下に示す。ただし、本発明は以下の数値に限定されるものではない。

本システムが稼働することにより、以下の4つの収益源から月間の総付加価値額として25万円（外貨換算を含む）を創出する一例を想定する。

（1）A I エージェントを用いた多言語接客による高付加価値商品の越境D 2 C販売収益（月額8万円相当）

（2）和の心（J - E t h o s）データセットのライセンス提供による収益（月額13.5万円相当）

（3）ユーザー端末の余剰計算リソースの最適化配分による収益（月額1万円相当）

（4）社会的インパクトに対する成果報酬（ソーシャル・クレジット）（月額2.5万円相当）

分配実行ユニットは、上記25万円の収益を、あらかじめ設定された「6：2：2」の比率に基づき即座に分配する。

（a）生活・尊厳枠：15万円。ユーザーの日常的生活維持費として充当される。

（b）資産・共創枠：5万円。このうち2.5万円は外部の成長産業へ投資され、残りの2.5万円は本システムの運営主体の株式取得（自社株投資）へ自動的に割り当てられ、ユーザーを共同主権者として位置付ける。

（c）社会貢献・維持枠：5万円。この中には、所得税、住民税、および社会保険料の代行納付分が含まれ、残額は「希望の種基金（H o p e S e e d F u n d）」等の次世代育成資金として還流される。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 1 7 】

本発明は、情報サービス業、電子商取引業、金融・決済サービス業、および広告宣伝業において広く利用可能である。特に、A I エージェントを用いたグローバルな経済活動と、それに伴う自動的な資産形成および社会貢献を両立させる次世代の社会基盤インフラ（社会O S）として利用される。

【符号の説明】

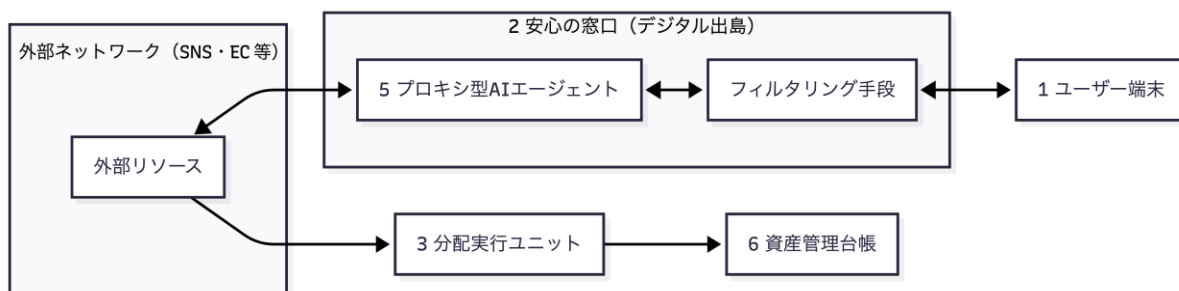
【 0 0 1 8 】

- 1 ユーザー端末
- 2 安心の窓口（デジタル出島）
- 3 分配実行ユニット

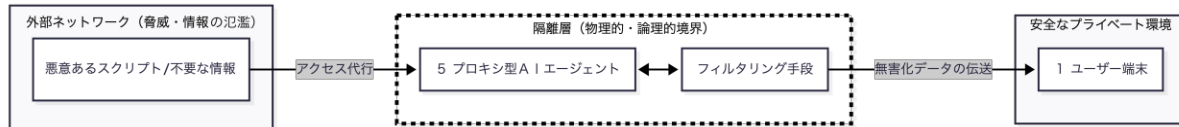
- 4 和の心データベース
- 5 プロキシ型 A I エージェント
- 6 資産管理台帳

【書類名】 図面

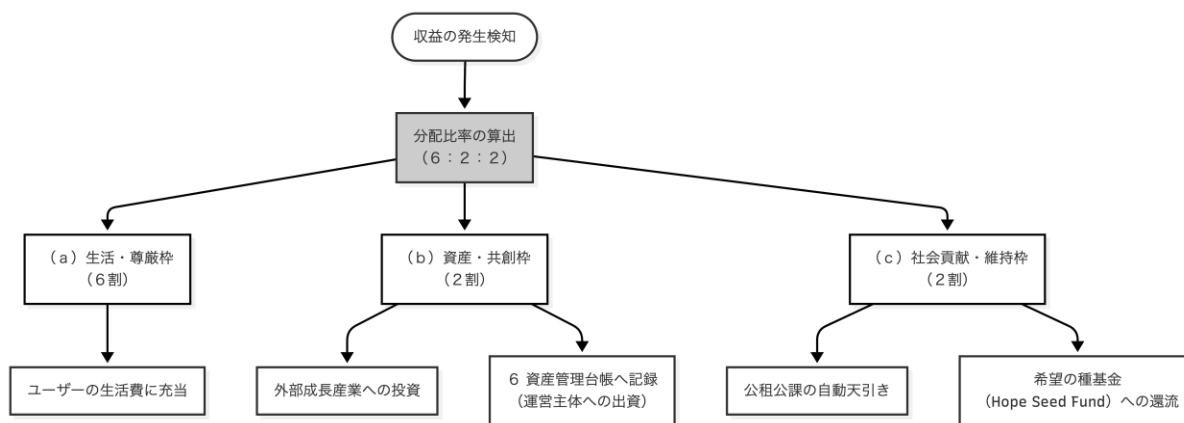
【図 1】



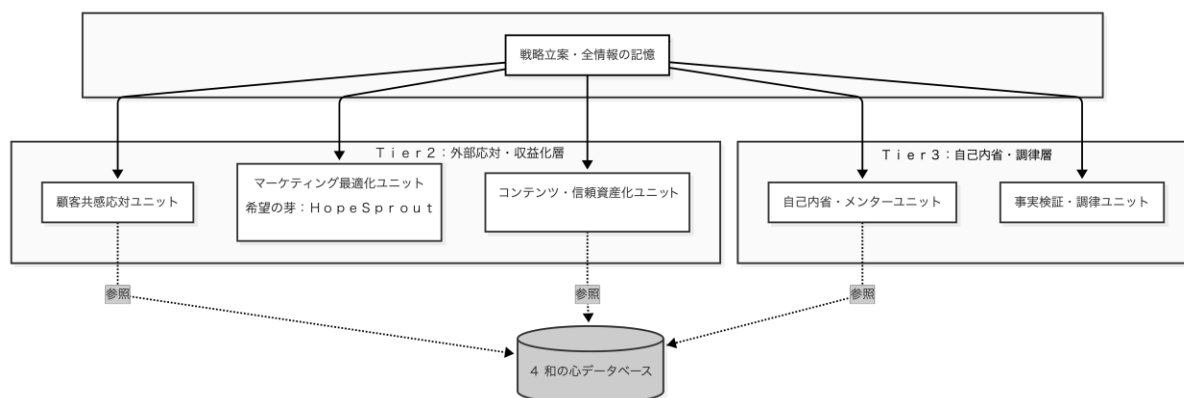
【図 2】



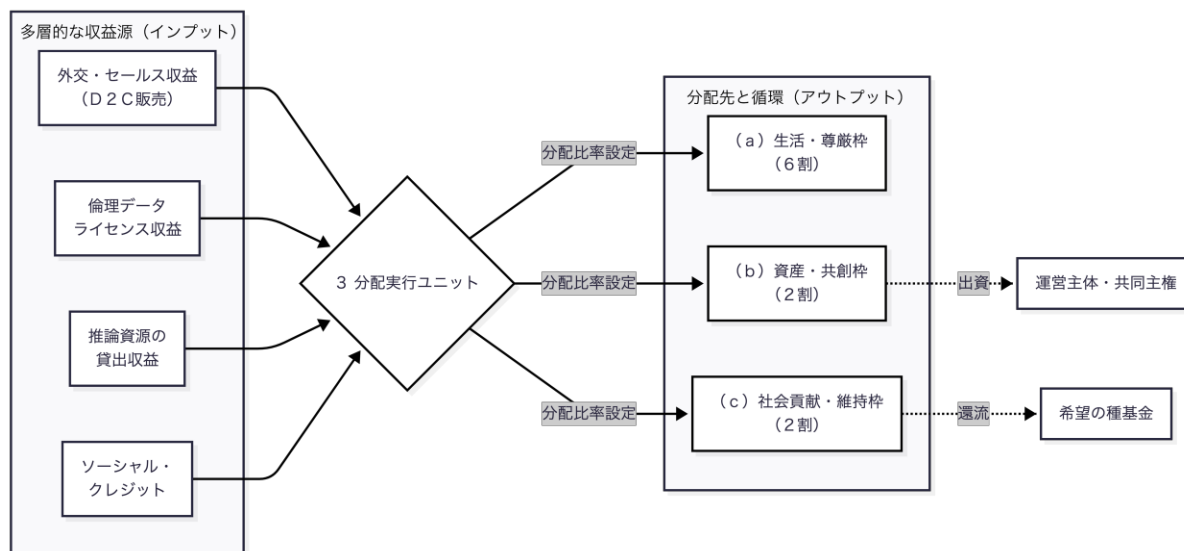
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 アテンション・エコノミーによる個人の感性の搾取や、既存AIモデルの文化的偏重、および個人がグローバル市場へ参入する際の言語・法務・税務の高い障壁を解決し、個人の善意や感性を正当に価値化しつつ社会貢献を実現する基盤を提供することを課題とする。

【解決手段】 ユーザー端末を隔離する「安心の窓口（デジタル出島）」と、多言語情報を動的に文化適合化するエンジン、対話ログから倫理的特徴量を抽出する精錬プロセスを備える。**また、役割の異なる複数のAIエージェントが階層構造（Tier 1～4）を形成して自律的に稼働する。**さらに、得られた収益を「6：2：2」の比率で生活維持、資産形成、および納税・社会貢献へ自動分配する資金循環制御システムを統合的に稼働させ、個人の経済的自立と社会還元を両立させる。

【選択図】

【図 1】